

## 東栄町



## 清水希容子

一般財団法人日本経済研究所 地域未来研究センター 研究主幹

東栄町は、愛知県奥三河の山あい、人口3千8百人のまちである。「東栄」の名は、昭和30年の合併時に、“北設楽郡の東で栄える”と名付けられた。

豊橋からJR飯田線で天竜川沿いに90分、伝統芸能「花祭り」で舞われる鬼の顔の形をした無人駅「東栄」からバスに揺られ15分で集落につく。

ここは、星空のきれいな町として知る人ぞ知るところ。まちなかに電車もなく、高速道路もない、大きな工場も商業施設も高いビルもない。だから、ひかりがい光害が少なく、きれいな空気が澄み渡り、夜になると満天の星空があらわれる。そうした環境のため、ジャコビニ流星群が来ると騒がれた、今から40年前に豊橋から天文台が移転した。天文台の屋外灯は灯りがもれないよう下向きにつけられている。今年、町をあげて、星空おんがく祭りが天文台の芝生広場で開かれた。



毎年の夏と冬、全国一斉に「星の見え方」を観察するスターウォッチング調査が行われる。東栄町では、今夏は天文台に他地域を圧倒する166人の町民や天文ファンが集まった。冬は廃校になった旧小学校舎を会場に、子供たちが、昼とは違う表情の学校に冒険気分で行く。東栄町天文台・スターフォレスト御園で星の案内をしている清水哲也氏は、「わくわくどきどきした気持ちはきっと心に残るはず」と語る。

子供たちは星をみあげ、それぞれに、神秘的な星の瞬きに心動かされ、科学に興味を持つ。天体望遠鏡を通して宇宙の大きなエネルギーを感じることができる。

日本人の歌には、「星に願いを♪」「星はなんでも知っている♪」「見上げてごらん夜の星を♪」など、星のタイトルのつくものがたくさんある。人々は昔から星と密接にかかわり、自分たちの思いや願いを託してきた。

しかし、都会では、街のネオンの明るさと、視界をふさぐ高いビルで、星がみえなくなってしまう。かつては、東京でも二階の物干し台に上がって星を眺めた。流れ星や、時には天の川も見えた。光害は年々進み、東栄町でさえ名古屋の街の灯りがもれてくるほどという。

都会では、星をみあげる気分を、プラネタリウムに求めている。2012年は、金環日食や金星の日面通過の話題もあり、来館者が増えている。

しかし、東栄町の本物の夜空にはかなわない。

町のあり様について、由布院温泉の中谷健太郎氏は語りました。

小さいから、身近に暖かい関係が生まれる。  
 小さいから、個性的な価値を生み出せる。  
 小さいから、大きな資本を必要としない。

天の川のみえるまち

	市町村名 (都道府県)	等級	観察人数 (人)
1	鳥取市 (鳥取)	11.8	2
2	南さつま市 (鹿児島)	11.6	4
3	市原市 (千葉)	10.8	8
4	胎内市 (旧黒川村) (新潟)	10.7	2
5	東栄町 (愛知)	10.7	166
6	岩泉町 (岩手)	10.6	2
7	日高川町 (和歌山)	10.5	36
8	諫早市 (長崎)	10.4	1
9	原村 (長野)	10.3	1
10	浅口市 (旧鴨方町) (岡山)	9.9	11
11	木曾町 (長野)	9.8	1
12	高梁市 (旧川上町) (岡山)	9.7	23
13	小笠原村 (東京)	9.6	23
14	八代市 (旧坂本村) (熊本)	9.6	54
15	十日町市 (旧川西町) (新潟)	9.5	1



東栄町天文台「スターフォレスト御園」

\*23年度夏期及び冬期の観察で、指定された代表的な星座を対象に双眼鏡（倍率7倍、口径50mm程度）を用いて参加者が見えた最も暗い星の等級（値が大きいほど良く見える）

(資料) 環境省 水・大気環境局

「スターウォッチング・ネットワーク 全国星空継続観察 23年度夏期及び冬期 実施結果報告書」

日本人と星の歌

歌のタイトル	歌手	年代
星はなんでも知っている	平尾昌晃	1958
見上げてごらん夜の星を	坂本九	1963
夜空の星	加山雄三	1965
星に祈りを	ブロードサイドフォー	1966
空に星があるように	荒木一郎	1966
星影のワルツ	千昌夫	1966
願い星・叶い星	西郷輝彦	1967
しあわせの一番星	浅田美代子	1974
星に願いを	アグネスチャン	1974
星の砂	小柳ルミ子	1977
星降る街角	敏いとうとハッピー&ブルー	1977
ポーラスター	八神純子	1979
星屑のステージ	チェッカーズ	1984
流星のサドル	久保田利伸	1986
星になれたら	Mr.Children	1992
流星の夜	松任谷由実	1999
地上の星	中島みゆき	2000